

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒480-1195
愛知県長久手市岩作雁又1番地1
愛知医科大学医学部衛生学講座内
電話 (0561) 62-3580
FAX (0561) 62-3580
発行責任者 柴田 英治

題字 皿井 進筆

巻 頭 言

留学の思い出

三重大学大学院医学系研究科公衆衛生・産業医学分野 皿 島 茂



最近は、留学するのを好まない大学院生が増えていると聞き、大変心配しています。私は、富山医科薬科大学の鏡森定信教授（当時）の下で医学研究科の博士課程2年生だった時に、突然、教授から留学のお話があり、ケンブリッジ大学の栄養学研究所かロンドン大学の疫学教室での研究を勧められました。その頃まで海外に出たこともなく、まだ留学することは夢もしたことがありませんでした。しかし、社会疫学が盛んなロンドン大学を選んで留学したことが、その後の自分の研究の方向を決定づけました。

渡英準備のことはよく覚えていませんが、既に結婚していたので家内と同伴で留学することにしました。家内とともに飛行機に搭乗したところからは多少、焦りの気持ちがでてきたのを記憶しています。英国内での住居の手配もせずにヒースローに降り立ち、ブルームズベリー界隈に着いてからフィンチリー・セントラルに住居が決まるまで暫く、高くないB&Bで滞在していました。

かの地で指導を仰いだマイケル・マーモット教授は、当時、ロンドン・スクール・オブ・ハイジーン・アンド・トロピカル・メディスン (LSHTM) とユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (UCL) と両方の教授を併任していました。私にはどちらの所属でも選んでよいと言われ、後者を選んでその客員研究員になりました。マーモット教授のホワイトホール・スタディの本拠地がUCLに置かれていたからです。

ホワイトホール・スタディは、職域の健康格差の記述とその要因を探索的に研究しており、その壮大

な研究デザインに驚嘆しました。マーモット教授の師にあたるLSHTMのジェフリー・ローズ名誉教授がまだご存命でその薫陶を仰ぐ機会にも恵まれました。さらにまた、ローズ教授の名前を冠した高血圧クリニックがあるセント・メアリー・ホスピタルで、ピーター・シーヴァー教授の教室にも場所を与えて頂き、ストレスと心拍変動の研究をしました。関心をもった領域にどんどんと進むことに何の障壁もなく、ロンドン全体が一つの研究機関のようなそんな一体感がありました。

一つだけ、留学の思い出を選ぶとすれば、マーモット教授から、私が経済学を経て医者になった経歴を評して、「自分（マーモット教授）は医者である立場から経済に向かった。何故、君は経済から医学にきたのか」と問われたことです。私が社会科学的見地からの医学研究に自覚を持てたのはこの時の問答のおかげです。経済的には決して楽ではなかったのですが、ロンドンでの自由な研究環境は他に代えがたいものでありました。若い大学院生や研究者に留学を勧めるのは、私のような年代のものにとって大切な務めのような気がします。



開 催 報 告

平成27年度日本産業衛生学会東海地方会学会開催のご報告

名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻 榊 原 久 孝 (平成27年度学会長)



学会長 榊原 久孝先生



特別講演 堤 明純先生



会場風景



左から渡井 いずみ先生、西谷 直子先生



シンポジストの先生方

平成 27 年 11 月 14 日 (土) に名古屋大学医学部基礎医学研究棟を会場に、平成 27 年度東海地方会学会を開催させていただきました。あいにくの天候にもかかわらず 162 名 (会員 122 名、非会員 26 名、学生 14 名) の参加を得て、午前の一般演題、午後の特別講演、シンポジウムを盛会裏に終えることができました。本学会は、西谷直子先生 (椋山女学園大学)、渡井いずみ先生 (名古屋大学) を中心に、関係する大学院生、学部生の協力で運営準備をしてきました。ご参加いただきました皆様方には多大なご尽力・ご協力を賜り心より御礼申し上げます。

午後の特別講演、シンポジウムは、職場におけるメンタルヘルス対策をメインテーマに企画しました。本年 (平成 27 年) 12 月からストレスチェックが各職場で施行される中で、職場のメンタルヘルス対策について今一度広い視点からその基本を振り返り考えてみ

る機会になればと企画したものです。

特別講演は、「**職場におけるメンタルヘルス対策**」と題して、この分野の第一人者である堤明純教授 (北里大学医学部公衆衛生学) にお話をいただきました。堤先生のお話は、一次予防として認知行動療法を含む心理学的アプローチの有効性や管理監督者への適切な知識と役割の付与の効果など、二次予防としてのスクリーニングに関する留意点、三次予防として早期介入による復職支援などについて、メンタルヘルス対策で有効性が示されている研究エビデンスの紹介やまた国際的な動向の紹介もあり、現場での活用に役立つ多くの示唆を与えてくださった講演でした。

それをうけたシンポジウムは、「**職場でのメンタルヘルス対策の取り組み**」として、産業医の立場から石川浩二先生 (三菱重工(株))、産業保健師の立場から川崎ゆりか先生 (日本車輛製造(株))、企業主の立場から

根岸茂登美先生（藤沢タクシー株）に、職場でのメンタルヘルスへの取り組み内容についてお話いただきました。石川先生からは、精神健康不調者の増加に対応して、短時間勤務制度の新設や幹部クラスへの教育の実施、また事例プロセス分析の実施などの取り組みを、川崎先生からは、不眠に着目した抑うつ者への保健指導の取り組みと産学共同研究による調査結果の現場での活用の有効性について、根岸先生からは、挨拶と対話による双方向コミュニケーションの促進とメンタル不調者の早期発見、企業主からみたストレスチェック制度について、などでした。三者三様でしたが、職場でのメンタルヘルス対策にどのように取り組んでいるかその苦労と努力が伝わってくる内容で、質疑応答・

意見交換が活発になされました。職場での今後の取り組みに参考になる内容であったと思います。

午前の一般演題では 25 題の発表がありました。これは近年では最も多い演題発表数で、初めての発表者の方も多くみられました。特に、産業医、産業保健師の方から産業現場での保健活動の取り組みについての報告が多くみられ、活発な意見交換がなされていたのが印象的でした。このことは主催者として最も嬉しかったことです。東海地方会では伝統的に産業現場での課題解決に向けた取り組みが活発であり、今回のように地方会学会の場がそうした活動の経験交流の場となり、現場の産業衛生の発展・向上に役立つことを願うものです。

〈平成27年度日本産業衛生学会 東海地方会学会の特別講演に参加して〉

ヤマハ(株) 山 本 誠



平成 27 年度日本産業衛生学会東海地方会学会が、11 月 14 日に名古屋大学で開催されました。今回は特別講演として行われた、北里大学医学部公衆衛生学教授の堤明純先生

がご講演された「**職場におけるメンタルヘルス対策**」について報告致します。

メンタルヘルスについて、多岐にわたる内容が解説されましたが、特に印象に残った 3 つの点についてご紹介致します。

1 つ目はスクリーニングにおける陽性尤度比の重要性です。陽性尤度比は「感度 / (1 - 特異度)」で表され、「有病者が無病者よりも何倍陽性になりやすいか」を示しています。メンタルヘルスの 2 次予防におけるエビデンスはあまり多くないことから、労働者全員にスクリーニングを行うことの効果については議論がある一方、陽性尤度比を意識し、職場のストレス調査やその他の情報から事前の有病率が高いと想定される集団にスクリーニングを行うことで効率的なスクリーニングが実施出来るということでした。今後職場でのスクリーニングを考える上で、陽性尤度比を意識して介入することで、より効果的な対策を実施することが出来るのではないかと考えました。

2 つ目は、イギリスで導入されている fit note の考え方です。これは福祉から就労へ国家的な政策方針が

転換されたことに伴い、従来の働けないという証明である sick note ではなく、「どのような条件が合えば復職できるか」に焦点を当てた fit note を利用した制度が実施され、効果検証が進められているということでした。これは普段の産業医業務で主治医との連携で用いる診療情報提供書の考え方に近く、将来良い効果検証が期待出来ると感じました。

3 つ目は、現場のグッドプラクティスを日本産業衛生学会としても募集していることです。これは WHO による世界の職場のメンタルヘルスガイドラインにおいて、予防を旨としたリスクマネジメント支援ツールを、学術的なエビデンスだけでなく現場のグッドプラクティスに基づいて提供するという考えがあり、これに基づき学会や産衛誌としても産業保健現場にあるグッドプラクティスを積極的に取り上げる方向で動きつつあるとのことでした。グッドプラクティスについては、経験豊富な東海地方会会員の皆様が普段の業務で行っているものを、地方会学会等で積極的に発信することで、学会活動への貢献にもなっていくことを感じ、今後の自分自身の学会発表へのモチベーションにつながりました。

全体を通じて、普段聞くことが出来ない国際的な動向やエビデンスも含めて、メンタルヘルスの 1 次 2 次 3 次予防について、系統だった講演を聞くことが出来、参加者にとっても有意義な講演でした。

〈平成27年度日本産業衛生学会東海地方会学会の シンポジウムに参加して〉

豊田合成(株)安全健康推進部 健康推進室 日比野 智 雅



今回初めて日本産業衛生学会東海地方会学会に参加させていただきました。東海地方はものづくりが盛んな地域で色々な産業がある中で、働く年代の方を支援する産業衛生の活動も活発にされているのだと本学会に参加して改めて感じる事が出来ました。

シンポジウムでは三菱重工(株)の石川産業医・日本車輻製造(株)の川崎保健師・藤沢タクシー(株)の根岸社長からお話を聞く事が出来ました。石川先生からは『連携』、川崎保健師からは『多面的に考える』、根岸社長からは『育む』というキーワードが私には伝わってきました。

石川先生はメンタル疾患での休業者に対しての要因を探るべく他職種・他部門と連携をとりプロジェクトチームを立ち上げ、そこでの活動を報告されました。他部署との連携は働く人を支援する上で欠かせない事とはいえ、考え方や方向性の違いを上手くベクトルを合わせながら前向きに取り組む事は困難な事も多かったのではと察します。

川崎保健師は不眠に着目した保健指導の実施の際の配慮と有効性を話されました。うつという切り口ではなく眠りについてアドバイスする事で多面的に対象者と接することで本人の気づきにつながる事、データを

多面的に活用する事により会社での産業保健活動への理解を得られる事が話されました。ただデータをどのように解釈するかを目を働かせる事は苦勞があったのではと考えます。

根岸社長はコミュニケーションの中でも対話が大切である事を話されました。対話を通じて伝わらない部分を互いに理解するものにするには、気づくと言うレッスンが必要です。その後気づいた事を理解し、そのための情報を収集・活用し、評価する力をつけていく育みは関わりを継続させる事により成されていくものと思いますが、時間と根気がないと出来ない事と考えます。

産業保健活動では保健師はおせっかいおばちゃんのような存在であると感じる事があります。おせっかいの根っこには「従業員が心配だから」という気持ちが多少なりともあるのではないのでしょうか。今回3名の先生のお話を聞き、思いやる気持ちがたくさん伝わってきました。日々の活動の中で思いやりの気持ちを持って、色々な方との連携を大切に、健康というキーワードだけで人を見るのではなく、多面的に見る目を大切に。そして自分自身も様々な活動を通じて育てていただいている事を改めて気づかせていただけた機会と感じています。この様な会を企画運営してくださったスタッフにも感謝し、今後もこのような機会に多く触れていきたいと感じました。

第28回産業保健スタッフのための研修会 開催報告

研修企画委員長 (ブラザー工業(株)) 上 原 正 道



第28回産業保健スタッフのための研修会を開催しましたのでご報告いたします。

平成28年1月23日(土)に名古屋駅前のウイングあいち(愛知県産業労働センター)において、4名の講師と3名のパネラーをお迎えして86名の参加者のもと、大変有意義な研修会となりました。



教育講演①では、遠田和彦先生（東海旅客鉄道株式会社）に「**常用薬剤と適正配置**」という内容でご講演いただきました。常用薬剤と適正配置の一般的な問題はもとより、乗務員の医学適性検査の判定における問題に関して、主治医と産業医の立場や考え方の違いを解説しながら、また事例を示しながら解説していただきました。そのなかで、結果が正しいかどうかは重要ではなく、プロセスを重視する考え方が重要だとお話されたことが強く印象に残りました。



教育講演① 遠田 和彦先生



教育講演② 巽 あさみ先生

教育講演②では、巽あさみ先生（浜松医科大学）に「**産業保健スタッフのための睡眠保健指導**」という内容でご講演いただきました。最近は睡眠の短時間化と夜型化が顕著になっており、作業能率低下との関係で危惧すべき状況であると述べられていました。また、巽先生が最近開発された「ぐっスリープガイド」をご紹介いただき、それを活用した睡眠保健指導について解説していただきました。

教育講演③では、中元健吾先生（日本ガイシ株式会社）に「**現場から見た化学物質リスクアセスメント**」という内容でご講演いただきました。リスクアセスメントやその簡便な手法であるコントロールバンディングについては現場ではやらされ感が強く、本来の目的である自律的な管理やリスクコミュニケーションが十分に図られていないのではないかという懸念が示されました。そのうえで、何のために



教育講演③ 中元 健吾先生



教育講演④ 加藤 尚一先生

やるのか目標を持って行うことが重要であり、作業者だけでなく作業主任者や衛生管理者など、各自が当事者意識を持って取り組むことが必要であるとお話されていました。

教育講演④では、加藤尚一先生（かとうデンタルクリニック）に「**昨今の労働安全衛生法改正と口腔保健**」という内容でご講演いただきました。産業歯科医の役割について法令を紐解きながら詳細に解説していただきました。また、歯周病は糖尿病の第6の合併症であるという考え方や歯周病治療におけるブラッシングなどのセルフケアの効果を症例画像を用いながら解説していただきました。

最後のパネルディスカッション「**私たちの産業保健活動**」では、まず3名のパネラー（石松宗二先生（三菱電機株式会社）、澤田真美先生（株式会社アドヴィックス）、山本誠先生（ヤマハ株式会社））に各社の産業保健体制や特徴的な活動をご紹介いただき、その後ディスカッションを行いました。それぞれの立場でのご苦労や経営者とのコミュニケーションの図り方など、経験を踏まえたお話を聞くことができました。また、健康管理はもとより化学物質管理やメンタルヘルスの問題などに対して、社会や企業の変化に対応しながら産業保健スタッフとしていかに活動していくのかという視点でディスカッションが展開されていました。



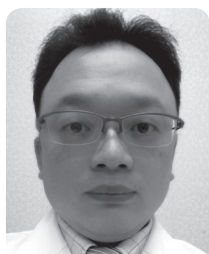
パネルディスカッション

今回の研修会では、産業保健スタッフにとって比較的高関心の高いテーマが多く、参加者アンケートでは総合満足度の項目で高い評価をいただきました。今後もこのように産業保健の実務に役立つ研修会を開催したいと思いますので、皆様ぜひご参加の程よろしくお願いいたします。最後になりますが、お忙しい中ご講演いただきました講師及びパネラーの先生方、誠にありがとうございました。

東海地方会産業医部会からのご報告

平成 27 年度東海地方会産業医部会懇話会に参加して

パナソニック(株) A I S 社 伊勢工場 産業医 山 口 威 俊



2016年2月27日に名古屋市の名古屋セントラル病院講習室にて開催されました産業医部会懇話会に参加いたしましたのでご報告させていただきます。

第1部は『産業医に知ってほしい先端医学』と題しま

したご講演を兵庫医大先端医学研究所の後藤章暢先生にいただきました。神戸医療産業都市化プロジェクトや神戸国際先端医療特区に参画されたご経験から、産業医に必要な『戦略と戦術』の違いについてユーモアを交えながらわかりやすくお話いただきました。歴史的事実から日本人が『戦略』の苦手な民族であるということや先端医療そのものは『戦術』であるということなど、大変興味深く拝聴することができました。また、ゲノム医学の発展により個人の遺伝子情報に基づく医療(個別化医療)が今後推進されていくことが予想され、これらの応用が産業保健にも多大な影響を与えるかもしれないとお話があり、産業医として先端医療を十分に理解しておくことの重要性を再認識しました。参加された34名の先生方も熱心に聞き入っておられました。

第2部は会員活動の報告として3名の先生方にお話していただきました。報告1では「男性産業医が育児休業を取得して考えたこと～男性育休と産業保健との関わり～」というタイトルで新日鐵住金(株)名古屋製鐵所の守田祐作先生からお話がありました。事前の業務調整から1ヶ月間の育休中の育児マルチタスクのこなし方な

どを産業医ならではの視点で捉え、報告されておられました。特に印象深かったのは育休をとることは職場のスタッフの成長にもつながるということでした。報告2では「転職して産業医として感じること」というタイトルで本田技研工業(株)鈴鹿製作所の駒田裕之先生からお話がありました。現職場の会社紹介のあとに前職場と対比して、産業保健の立場から見た違いについて説明がなされました。担当する会社の従業員規模が4倍近くになり、今までのやり方では業務をこなすことができず、試行錯誤しながら奮闘されている様子が伺えました。報告3では「事業場における2度の心肺蘇生(同一)事例の考察」というタイトルで三菱重工業(株)大江西健康管理科の石川浩二先生からお話がありました。事例を通じて得られた教訓として、AED使用時の心電図の解析の重要性、緊急事態時の連絡体制のあり方、復帰時の就業制限のあり方などをご説明いただき、非常に示唆に富む内容でした。フロアからは原因疾患についての可能性について活発に議論が交わされました。

第3部は近隣の居酒屋に場所を移し、第1部の講師である後藤先生にもご参加いただき、会員同志の親睦が図られました。22名の先生方が参加され第1、2部の内容についてさらに掘下げた議論や個々人の趣味の話題などで大いに盛り上がり、交流を深めることができました。

今後もこのような会が継続的に開催され、東海地区の産業保健の発展に寄与できることを願って、小職の報告とさせていただきます。



講演 後藤章暢先生



報告 1 守田祐作先生



報告 2 駒田裕之先生



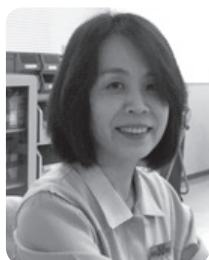
報告 3 石川浩二先生



懇親会

看護部会の開催報告

(株)東芝四日市工場 高 崎 正 子



平成28年2月13日、産業看護部会本部との懇談会及び研修会を開催しました。懇談会では、部会長である五十嵐千代先生より、産業保健看護専門職制度の現状について説明があり、46名の参加者との意見交換が行われました。

今回の研修会テーマでもある「ストレスチェック制度に取り組んで」のシンポジウムの前段ということもあり、ストレスチェック制度において、専門職として個人への支援はもちろんのこと、職場環境改善で集団・組織を支援していくには、「組織を観る力」、「職場診断からPDCAへプレゼンスしていく力」をつけていくことが重要だと述べられました。そのためにも、産業保健看護専門職制度の登録者試験にチャレンジし、ラダーを活用して自己研鑽に励むことで専門性を高め、社内外の活動の両輪でキャリアアップを目指して欲しいとの熱いメッセージが伝えられました。

その後の研修会では、和やかな雰囲気の中、4名のシンポジストが登壇されました。名古屋大学の渡井いずみ先生には「ストレスチェック制度の概要とポイント」と題して、本制度の目的・ポイントなど

大枠をお話しいただき、改めて看護職としての役割を再認識することができました。引き続き、大企業で専属産業医と複数看護職がいる三菱電機の三浦真美先生には、全社でシステマチックに対応を進めていく中で、産業看護職として何ができるのかという視点での役割と課題をご報告いただきました。また、ブリヂストンの池戸亜紀先生には、一人職場の産業看護職として、創意工夫している点やひとり一人の笑顔を大切に手作り感満載で進めている活動についてご報告いただきました。最後に、労働衛生機関に所属している立場から、アドバンテッジ・リスクマネジメントの加藤由佳先生より、実際のサービスの数字や顧客企業からの声を基に、社外であるからこそできる事についてご報告いただきました。

発表終了後、シンポジストもグループワークの輪に入って活発な意見交換が行われましたが、最後まで出席いただいた五十嵐部会長から、研修会を通しての感想として、東海地方会産業看護部会のチームワークと結束力の高さについて褒めていただきました。今後もこの地方の産業看護職がスキルアップしていけるよう、本部と地方会が一体となった研修のあり方を、看護理事の先生方とともに考え、提供していきたいと思っています。



五十嵐千代先生



看護部会の研修会風景

インタビュー

齋藤 俊二先生に聞く産業医学の道



インタビューは、2016年3月26日（土）に静岡市にて久永直見先生と柴田英治先生により行われました。



齋藤 俊二先生

幼少期から大学入学まで

私は1927年に当時の秋田県北秋田郡花岡町（現在は大館市）の生まれ、88歳になります。花岡には銅鉱山があって、1,500人ほどが働いていました。父は中学卒業後、秋田鉱山専門学校を卒業し、花岡鉱山の採鉱技師をしていて、鉱山関係者の中では優遇されていました。労働者が長屋住まいだったのに対して私の家は一戸建てで、用務員さんがおり、子供時代に苦労したことはあまりなかったと思います。4人きょうだいの3番目で、兄と姉、妹がいます。兄は東北大学工学部を卒業し、磁性金属製造会社に就職しましたが、もう他界しています。姉と妹は健在です。医師になったのは私だけです。田舎のエリートのようなものでしょうか、坊ちゃん育ちで、体育は苦手でしたが、成績はよかったようです。鉱山の管理職の子供が同じ小学校に私の他に2人いて、それぞれ別の中学、大学に進み、5年ほど前に70年ぶりに再

会しました。そのうちの1人は小西正泰君と言って農業関係の会社に勤務しながら昆虫学者になり、本を数冊書いていますが、残念なことに再会後に亡くなりました。1940年、旧制大館中学に進学し、5年間通いました。この地方では進学校と言われていましたが、戦時中ですから、学校には配属将校がおり、三八式歩兵銃を使った厳しい軍事教練がありました。私はこれが苦手でした。1945年、旧制弘前高校に進学、3年間通いました。旧制高校では教養教育が重視されていて、デカルト、カント、倉田百三の「愛と認識との出発」、西田幾太郎「善の研究」などが必読の書と言われ、田舎の中学出身の私はカルチャーショックを覚えました。後にNHKのアナウンサーになった鈴木健二氏が同期で寮の委員長をしており、当時から口八丁手八丁で、弘前市との交渉等で活躍していました。

大学時代、インターン

1948（昭和23）年に東北大学医学部に入学しました。同級生に後に作家・北杜夫として名を成した齋藤宗吉君がいました。彼はその頃からユーモアに富んだ人でしたが、野球が好きで、クラスでチームを作って、彼は投手、私は捕手でバッテリーを組みました。彼の球種はナチュラルシュートの直球だけでサインは要らず、私はただ彼の球を受けるだけでした。当時の野球チームのメンバーも大部分はもう亡くなっています。他に同期には後に秋田大学医学部の教授になった加美山茂利君がいます。1952年に大学を卒業し、インターンとして1年間、花岡鉱山病院に勤めました。医師は東大から派遣されていました。翌年、医師免許を取得し、東北大学の公衆衛生学教室に入局しました。学生時代に公衆衛生の助教授の講義から、公衆衛生に興味を持ったのです。当時の公衆衛生学教室はがんの疫学を研究していました。

医師としての駆け出し時代

しかし、実家の事情もあり、大学には1年半いたただけで、1954年から再び花岡鉦山病院で働くことになりました。結核病棟の主任を任される一方、鉦山ではいわゆる「医師である衛生管理者」、現在の産業医の仕事をしました。当時指導していただいた医師に後に東大助教授、順天堂大教授になった眼科の中島章先生がいました。花岡鉦山は土が軟らかかったためか、重症のじん肺は多くなく、じん肺合併の結核の治療が課題でした。私は東北大学抗酸菌病研究所で1ヶ月の研修を受け、結核専門の医師になる決意をしていました。当時の治療は6ヶ月だけ公費負担で、ストレプトマイシン、パス、ヒドラジドの3剤併用が行われていました。他に外科的治療も行われ、内科医の私も手術に立ち会って麻酔の手伝いをするようになり、さらに麻酔医としての役割も十数例経験しました。他に職員家族の健診もしていました。東北大学での研究は1958年に東北医学雑誌に論文「宮城県に於ける癌死亡の統計的研究」として発表し、これが学位論文になりました。

産業医学との出会い

当時はまだ日本産業衛生学会はなく、前身の産業衛生協会に入会しました。1959年からこの協会の機関誌が創刊されています。1960年に小坂鉦山病院に異動しました。銅の製錬所があり、溶鉦炉の作業員から原因不明の腹痛が数例発症しました。調査の結果、黒鉦と呼ばれていた鉦石には銅、鉄、亜鉛などとともに鉛も3%含まれていました。腹痛の原因は鉛、鉛疝痛だったのです。この事例は1967年に鉦山医学研究会会誌に発表しました。後日、この報告は鉛中毒予防規則の第1条第5号に列記された鉛業務の中の「銅又は亜鉛の製錬又は製錬を行う工程における溶鉦（鉛を3%以上含有する原料を取り扱うものに限る。）」として活かされました。これは、私の産業医学との重要な関わりであると同時に私の産業医学への貢献を形にできたものと思います。

鉦山病院では、肺胞蛋白症の本邦男性第1例も経験し、論文発表しました。（注：久永、柴田らが1984年に同症例を産衛地方会報告した折、先行研

究としてご教示頂いた。）

静岡県沼津市へ

小坂鉦山病院には1967年まで7年間勤めました。鉦山の先行きに不安を感じ、日本医事新報の医師求人欄を見て沼津市にある藤倉電線診療所に応募し、採用されました。当時は産業医という法的な職制はなく、日常診療と健康診断が主な業務でした。会社は1,500人の従業員に、健康診断の項目として当時としては先進的に尿の一般検査を行っていましたが、尿一般の試験紙がまだない時点で、糖、蛋白、ウロビリノーゲンについてそれぞれビーカーから試験管に分注しなければなりませんでした。検査が終わると大量のガラス器具を職員が残業して洗浄しており、私は気の毒に思っていました。その後、糖と蛋白は、試験紙が登場し、職員の長時間労働は解消しました。この地方の産業医として活躍されていた国鉄、後に三菱電機の清水善男先生が中心になり、東レの糸井重幸先生、旭化成の牧角淳先生とともに勉強会をしていました。職場では絶縁塗料、ポリエステルなどの化学物質の取扱い作業がある一方、作業員の中には喘息、てんかんなどの発症が見られ、私は作業との関連があるのではないかと意欲的に検討しましたが、明確な結論は得られませんでした。電線をより合わせる工程では、機械の高速回転から出る騒音には打つ手がありませんでした。また、より線の前工程の伸線では、粗びき電線から発生する粉じんが気中できらきら光っていました。そこで、粉じんを捕集して形状を調べ、写真を撮り、初めて日本産業衛生学会東海地方会で発表しました。この報告は後に「産業保健Ⅱ」（1985年）に引用されています。藤倉電線には6年間いましたが、その後、旧制弘前高校の先輩から頼まれて小さな病院で3年間働きました。

東海検診センターへ

そして1976年に東海検診センターに異動しました。当時は健康診断と環境測定の間方に対応できる施設は珍しく、魅力を感じたからです。健康診断での異常所見に作業との関連が疑われ、職場の環境測定に出向いたこともありましたが、蒲原の

病院の先生が鉄塔や橋梁の塗装作業者の鉛中毒を5例発表し、これが新聞に出て、当時の県労働基準局の安全衛生課長が塗装業者を集めた健康診断を担当したこともあります。これに関連して、産業医学振興財団から研究費をもらい、塗装作業者に個人サンプラーを装着させて鉛ばく露の状況を調べました。屋外作業であることもあり、気中鉛濃度は0.3~6mg/m³でした。1982年に産業医学ジャーナルに発表しています。近年、介護作業者の腰痛が問題になっていますが、私もかなり前から障害者施設などの職員の腰痛健診に取り組み、ラセグー徴候の検査なども丁寧にやっていた疲れした記憶があります。現在は東海検診センターに週3日勤務して、特殊健診の判定、心電図の判定、胸部X線写真の読影などの仕事をしています。

メンタルヘルスとストレスチェックについて お感じのことは？

メンタルヘルスの問題は1960年代後半頃から始めたのを覚えています。過重労働の面接も多く行いましたが、作業環境調査などと違って客観的な物差しがなく、私は苦手に感じています。昨年末からストレスチェック制度が施行され、労働者が記入した問診票の評価分析が取り入れられていますが、紙の問診票に頼り過ぎることなく、面接で受け答えや表情の変化などを見ることが最も大切でしょう。

中小企業の産業衛生で大切なことは何ですか？

私の経験では中小企業にも安全衛生に知識や熱意のある事業主やスタッフは必ずいます。職場巡視の時にはそうした熱心な人たちの協調が必要です。中小企業は経済基盤に限界がありますから、理想的なことを言っても実現は難しくなります。職場巡視の結果から安全衛生委員会などで実状に基づいた、現場の人たちが受け入れ可能な意見を述べることであれば中小企業でも立派な活動ができると思います。

若い世代に伝えたいことは？

私はもともと希望してこの世界に入った訳ではなく、成り行き上こうなったのだと思います

が、この道しかなかったとも思います。だから、あまり大きなことはいえないのかも知れません。私がこの世界に入った頃は産業衛生に取り組む人の数は少なかったと思います。今は産業医科大学の卒業生が多数活躍し、進んだ活動をしている人たちもいます。私の時代は個人的な活動という側面が強かったと思いますが、今は専門医試験でも出題されるように、集団のマネジメントが産業衛生の方法として重要になっています。新しい時代に適応した産業衛生の方法を身につけ、大いに活躍してくださることを期待しています。

最後に

これまでこのインタビューのシリーズは興味深く読ませていただきました。特に鎌田先生は出だしが鉱山というところが私と似ていると思います。昔の人間にも光を当ててくださることは大変うれしく感謝しています。



インタビューを終えて

作家の北杜夫氏と野球チームでバッテリーを組んでいたというお話に歴史的な重みを感じました。希望してこの世界に入ったわけではないと謙遜されましたが、その時々が必要とされる仕事に誠実に取り組まれた結果が産業衛生の分野に大きな成果を刻まれることになったのではないかと思います。東海検診センターに移られた動機が現場で課題をみつけることと環境測定などで客観的なデータを得ることを両立できることにあったとお話も私たちが常に忘れてはならないことです。米寿の今もお仕事を続けられていることに敬服するとともに、これからも私たちをご指導くださるよう心からお願いいたします。

柴田、久永 記

近 況 報 告

私の愛読書

本田技研工業(株) 鈴鹿製作所 駒 田 裕 之



日本産業衛生学会東海地方会の皆様、この場では初めまして。

産業医科大学を卒業して早 15 年…専属産業医になって 10 年が経過しました。Honda に入社して現在(平成 28 年 3 月現在)で 2 年と 5 ヶ月になります。

皆様ご存知の通り、Honda は二輪及び四輪自動車を製造している企業です。おおよそ、製造業の中でも、自動車製造企業でありとあらゆる作業が行われており、労働衛生管理の対象となる項目は多種多様です。当事業所は従業員数も多く、日々定期健診・特殊健診の判定及び事後措置に追われているのですが、それでもなるべく社員さんの職場状況を把握しようと、定例の職場巡視以外でも、折に触れ工場の中を歩き回る日々を送っています。好奇心を満たすことができます

し、また面談等を通じて顔見知りになった社員さんに声をかけ、驚いた顔を見るのもまた楽しみです。

そんなこんなで早 10 年、産業医業務に飽きも覚えず、楽しい日々を送っていますが、それでも産業医は組織の中の少数派。どうやってあり続ければよいのか、悩む日があるのもまた事実です。答えを探し、いろいろな本を当たったり、同輩と話をしたりするのですが、文学や歴史から意外なインスピレーションを得ることも多いです。私の愛読書は、勝海舟の「氷川清話」。この本の中に、江戸時代初期の剣豪、柳生但馬守宗矩への人物評が載っています。私には最近、この柳生但馬守と三大将軍家光との関係が、企業と産業医との関係に似通って見えるのです。将軍家指南役とは言え、格がそう高い訳でもない一介の剣士が、いかに時の権力者に対して大きな発言力を持ちえたのか…興味深いと思いませんか？過ぎし日の英雄に思いをしのばせつつ、精進する毎日です。

近況報告

三菱電機(株)中津川製作所 成 定 明 彦



日本産業衛生学会東海地方会のみなさま、お世話になっております。

ふたたび、投稿させていただきます。

いまの事業所(三菱電機(株)中津川製作所)にお世話になって 8 年が経ちました。

中津川の冬の厳しさにはいまだ慣れませんが、従業員・スタッフには温かく接してもらい、事業所にはすっかり馴染みました。

同じ年(2008 年)に新卒社員として入社した人たちが、今や会社の中心としてバリバリ働く立場となっていたり(それで、過重労働面談で面談したり…)、定期健診の事後指導が必要になる人が出てきたりして、そんなところでも 8 年の年月を感じています。

予防医学、特に生活習慣病予防を頑張りたいと考えて産業保健をはじめたこともあり、定期健診事後措置を中心に力を入れてきました。しかし、8 年やってもま

だまだ力不足です。目に見えて健康が悪くなった人も残念ながらおられます。指導した人が全員改善するなどということは、もちろん夢にも思っていないですが、もう少し何とか出来ないか?という悔しさもあります。

先日、朝食抜きが脳出血のリスクを上げるという研究結果がニュースになりました。このような「何が良くないか?」(いわゆるリスク因子)は、この 8 年の間にも新たな(そして、興味深い)知見が次々に明らかにされています。われわれの産業保健の醍醐味の 1 つは、そのような結果をどのように従業員の健康に活かしていくか?というところだと思います。ただこれも私の力不足で、現状は従業員に一方的に「指導した」、「教育した」(いわゆる情報提供)というところで留まっています。

その「どのように活かしていくか?」に少し踏み込んでいくことが、これからやるべきことではないかと考えております。

みなさまには引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願いいたします。

会 員 の 声

新規加入のご挨拶

東海旅客鉄道(株) 健康管理センター 名古屋健康管理室 高 畑 真 司



この度、日本産業衛生学会東海地方会へ入会いたしました、高畑真司（こうはたしんじ）と申します。

産業医科大学を平成22年に卒業し、国立病院機構呉医療センター（2年間）、東海旅客鉄道株式会社（1年間）、産業医科大学産業生態科学研究所産業保健管理学的研究室（2年間）を経て、平成27年4月より現職に至っております。初期研修期間2年で医師としての基本を、後期研修期間3年で産業保健の基本を、素晴らしい先輩方、同期、後輩と一緒に学ぶことができたと思います。

弊社は、東海道新幹線輸送、名古屋・静岡を中心とした中部圏の在来線輸送を担い、中央新幹線開業に向け、準備を進めております。弊社で働く労働者というと、運転士、車掌、駅員を想像する方が多いと思いま

すが、その他車両設備、インフラ設備の開発・維持・管理を行う者など、多種多様な労働者が共存する企業です。産業医である私は、愛知県内、岐阜県内、長野県内の職場を担当し、様々な労働者と関わりながら産業保健活動を推進しております。

弊社の健康管理・健康支援活動においては、労働者保護の見地からの安全・健康配慮とともに、公共の安全確保のため、鉄道保安の見地からも、対応を考えなければならない場面があります。労働者、会社にとっても望ましい対応は何か、頭を悩ませながら日々活動しております。

私は産業医としてまだまだ未熟であり、学会、研修会などで学会員の皆様からご指導、ご鞭撻いただき、自分自身の成長につなげ、産業保健活動に生かしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

新規加入のご挨拶

新日鐵住金(株) 名古屋製鐵所 波多野 直 美



この度、日本産業衛生学会東海地方会へ入会させて頂きました、波多野直美と申します。看護短期大学を卒業後、新日鐵住金株式会社に入社しました。当社は製鉄業を行っており、全国に製鉄所や支店

が点在しています。私が勤務する名古屋製鐵所は、その中の一つであり、中部経済圏で唯一の銑鋼一貫の製鉄所として、薄板製品や厚板製品、鋼管製品等を製造しています。それらの製品は、自動車鋼板や食缶、飲料缶等の日常生活で接するものから、大型コンテナ船やエネルギープラント等の材料として各種事業分野で使用されるものとなり、様々なシーンで活用頂いております。名古屋製鐵所には社員が約3,000名おり、そのうち、半数は交代勤務に従事しています。また、社員の年齢層も18歳～65歳と幅

広く、業種も工場で製造や整備に携わる人から改善や開発に携わる人等様々です。このような中で、私は保健師として社員の健康管理業務に携わっていますが、健康意識は人それぞれで、うまくいかないことも多く、日々悩みながら対応しています。行き詰る時には、産業医や保健師同士で相談をして問題を共有し、対応を検討しています。また、社内の保健師の交流会があり、情報共有を行ったり、テーマを出して意見し合う場があります。ただ、社内だけでは視野が狭くなってしまうため、より広い場でも自身を磨いて知識を得る場を持ちたいと考えていました。日本産業衛生学会東海地方会に入会させて頂くことで、研修会や学会で新たな知識を得る機会や、他職種の方々と交流を深める場に繋がると考えています。自己研鑽に励み、より良い産業保健活動に繋がっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

会 員 の 声

新規加入のご挨拶

新日鐵住金(株) 名古屋製鐵所 新 海 知 恵



「ご安全に！」

この度、日本産業衛生学会東海地方会に入会させていただきました新海知恵と申します。どうぞよろしくお願い致します。大学卒業後、名古屋市内の大学病院で看護師として臨床を経験した後、当社に入社しました。看護師として働く中で、辛い闘病生活を過ごされる患者のケアを通じて生活習慣病の再発予防は出来ても、新たに今後同じ思いをする人は減らせないのではないかと考えるようになりました。その答えを探すために、産業保健の道を選びました。

病院という医療の現場から鉄鋼業という全く別の業界に転職してから約1年半、保健指導活動と鉄造りの仕組みを学ぶ毎日です。

説明が遅れましたが、冒頭に記載しました「ご安全に！」は弊社で挨拶として使われている言葉で、ドイツの炭鉱夫たちの間で使われていた「ご無事で！(Gluckauf)」という語源が由来となって出来た挨拶です。入社当初はこの挨拶を使用している光景に違和感を抱きましたが、今は自ら進んで大声で「ご安全に！」と言える様になりました。出来る限り社員が安全かつ健康に過ごせるよう思いを込めて元気よく挨拶するようにしています。

さて弊社は95%以上が男性社員であり、自ら調理する人は少なく、食生活の改善指導をしても簡単には理解してくれません。そのためどのような方法でサポートすることが良いのか日々模索中です。1人の社員の背景には多くの家族や友人・同僚がいることを忘れず、1人でも多くの方が健康で過ごせる時間が長くなるよう保健指導に励んでいきたいと考えています。まだまだ知識不足ですので、皆様からご指導いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

新規加入のご挨拶

大同特殊鋼 安全健康推進部 ヘルス改革室 鈴 木 琴 美



この度、日本産業衛生学会東海地方会に入会した鈴木琴美と申します。

大学卒業後、病院勤務、大学の保健管理室での勤務を経て2014年10月から現在の会社の保健師として勤務をしています。

弊社では、特殊鋼という名の通り、鉄に様々な元素を加えた合金鋼を製造・加工しています。2016年8月に創業100周年を迎え「安全と健康は、幸せの原点」の理念の下、産業医・先輩保健師とともに従業員の健康管理にも力を入れています。同時に、2016年は「健康改革元年」と定められており、大同グループ全体で健康改革に取り組んでいく方針となっています。

私が勤務する知多工場は、弊社の粗鋼の90%を生産する主力工場で、協力会を含む約3,000名の方が勤務されています。衛生担当者・協力会の保健師とも協力し、知多工場に勤務する従業員の皆さんが業務中にも健康意識を持ってもらえるように、行政や社員食堂と連携した食育に関する取り組み、昼休みウォーキング等の健康イベント、健康活動に関するインセンティブプログラムを実施しています。

また、大同特殊鋼の従業員には年1回、全員面談を実施し、個別の健康観・生活習慣にあった保健指導や、メンタル面変調の早期発見もできるよう心がけています。業務や面談を通じて学ぶことも多く、反省することもあります。成長の機会と捉え、努力していきたいと思っています。

今後は本学会や研修会を通じて、他企業様の取り組みや法令改訂、新制度の導入などの新たな知識を身につけ、さらに従業員の方々の健康増進につなげていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。『ご健康でご安全に！』

大 学 教 室 の 紹 介

中部大学生命健康科学部保健看護学科 地域保健看護学領域

白 石 知 子

工学部のイメージが強い本学に、医療系学部である生命健康科学部が平成18年（2006）に設置され10年が経過しました。当初は生命医科学科と「保健看護学科」の2学科でしたが、その後、理学療法学科、作業療法学科、臨床工学科、スポーツ保健医療学科が増設され、現在は6学科で学部が構成されています。更に平成23年（2011）には大学院生命健康科学研究科修士課程が、平成25年（2013）には博士後期課程が設置されました。

「保健看護学科」は学年定員100名で、看護師の他、保健師、養護教諭（1種）の選択コースがあります。「保健」と「看護」の両用語が並ぶ学科名は、あまり見慣れないかと思いますが、これは21世紀型の新しい医療に対応できる看護職には、「保健」や「予防」の観点の修得が必至という本学科の特徴を示しています。

地域保健看護学領域は、城憲秀教授のもと4名の教員で構成され、「保健」と「予防」に関する教育を担っています。領域の看護教員に関しては、全員に産業保健師の経験があります。産業保健・産業看護に関する教育は、看護師課

程の必修科目に組み込まれています。平成24年度より選択制となった保健師課程では、保健所・市町村での臨地実習の後に、事業場での実習を経験し、産業保健・看護活動への理解を深める機会を得ています。入学当初から産業保健師を目指す学生が毎年おりますが、今のところ新卒採用の情報が得難くなかなか実績にはつながりません。しかし、既卒生の中から少しずつ産業保健師が誕生していると聞いています。

教員の研究テーマは、「産業疲労」、「産業保健国際協力」、「産業看護職の職業能力」、「地域・職域連携」、「生涯学習」、「メンタルヘルス」、「子育て支援」などです。今年度は、産業保健・看護に関心の高い大学院生（博士1名、修士1名）が加わり、産業看護の色合いが濃くなっているように思います。

本学名古屋キャンパス（鶴舞）では、毎年、東海地方会に関連したイベントをいくつか開催いただいております。今後も日本産業衛生学会東海地方会の皆さまに本学をご利用いただくとともに、ぜひ看護職の方々には、本学大学院のご活用もご検討いただけると幸いです。

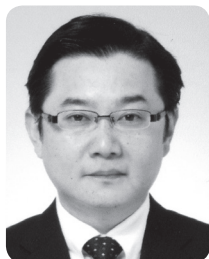


後列左から 大橋 裕子准教授 宮武 真生子助教
前列左から 筆者 城 憲秀教授 藤丸 郁代准教授

受賞報告

学会奨励賞を受賞して

名古屋市立大学・院・医・環境労働衛生学 榎原 毅



第89回日本産業衛生学会で学会奨励賞を拝受いたしました。産業衛生の振興ならびに奨励を図ることを目的とした本賞を受賞させていただくことは大変名誉なことであるとともに、身の引き締まる思いです。

私は2001年に名古屋市立大学大学院医学研究科の博士課程大学院に進学し、人間工学に軸足を置いた研究を行ってきました。衛生学教室の井谷徹教授のご指導の下、フィリピン・タイなど国内外の産業現場に密着したフィールド研究を主に、様々な経験と研鑽を積ませていただきました。この知見は後に筋骨格系障害予防のための人間工学国際規格(ISO/TS20646)の制定・定期見直しにも反映され、それがきっかけとなり国際標準化機構ISO/TC159(人間工学)SC3国内分科会委員長として同規格の改定作業に今も携わっております。

東海地方会においては、井谷先生が地方会長を務められていた2002年～2007年の約5年間、城憲秀事務局長の下で事務局として関わらせて頂きました。その間、第8回産業衛生技術部会大会(2003年10月)、第

77回日本産業衛生学会(2004年5月)、International Symposium on Occupational Health in Small-scale Enterprises and the Informal Sector(2004年11月)の事務局・実行委員のほか、2007年5月には第18回日中韓産業保健学術集談会の事務局長を務めさせていただくなど、たくさんの方々と一緒に仕事をさせていただく機会を頂きました。そのような活動を通じて、東海地方会の諸先生方に育てていただいたことの積み重ねが、今回の受賞につながっていると思います。そのような私の成長を見守ってくださった東海地方会の諸先生方に心より感謝申し上げます。

そして、人間工学の必要性・重要性に理解を示してくださり、影ながらいつも応援してくださっている上島通浩教授や、様々な研究機会を与えてくださった神代雅晴先生(産業医科大学名誉教授)など、多くの方々による支えがなければ今日までの研究活動はなし得ませんでした。あらためて多くの方に支えられて今の自分があることに感謝しつつ、今度は自分が後進のために、人間工学の専門性を産業保健の実践に還元し、産業保健ならびに人間工学の発展のために力を尽くしていきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

学術研究推進委員会より

産業保健現場で調査研究を行いたい方、支援する方を募集します

支援を受けながら産業保健現場で調査研究を行いたいと考えている方(調査研究実施者)と、そのような調査研究の支援をしても良いと考えている方(支援者)を募集します。

調査研究の内容としては、学術研究的なものだけではなく、グッドプラクティスの報告や、データに基づき現場の産業保健活動を改善するためのものも歓迎します。

普段、そのようなことを一緒に考えてくれる方や、統計解析方法・発表のまとめ方などの指導をしてくれる方が身近にいない産業保健現場の会員を、他の会員が支援することによって、地方会学会や全国学会・協議会等での一般演題、産業衛生学雑誌等への論文投稿が増加することを目標に活動しています。

また、この支援制度によって行われた調査研究の成果の、産業衛生学雑誌またはJournal of Occupational Healthの掲載料、Journal of Occupational Healthへの投稿の場合の英文校正費について、研究費等が無い方の場合、地方会の会計から助成することになりました。

詳しい内容についての問い合わせや、申し込みは下記までどうぞ。

学術研究推進委員会委員長 尾島俊之
(ojima@hama-med.ac.jp)

同 副委員長 山本 誠
(makoto.yamamoto@music.yamaha.com)

事務局から

地方会理事会

平成27年度 第4回理事会

日時：平成28年2月27日（土）10:00－12:00

場所：名駅モリシタ名古屋駅前中央店
（7階・第2+第3会議室）

【議題】

- I. 前回理事会議事録（案）の確認
- II. 協議事項
 - 1) 平成27年度地方会会計報告（案）
 - 2) 規約の改正について
 - 3) 看護部会の規定の改正について
 - 4) 学会および研修会の赤字に対する対応について
 - 5) その他
- III. 報告事項
 - 1) 平成28年度地方会学会準備状況
 - 2) 本部理事会
 - 3) 地方会事務局報告事項（マイナンバー制度について・会員状況）
 - 4) 部会・研究会
 - 5) 委員会
 - 6) 愛知県医師会産業保健部会
 - 7) 地方会ニュース
 - 8) 第28回産業保健スタッフのための研修会開催報告
 - 9) 第43回産業中毒・生物学的モニタリング研究会開催報告
 - 10) 平成28年度総会ならびに研修会準備状況
 - 11) 関連学会
 - 12) その他

平成28年度第1回理事会

日時：平成28年7月2日（土）10:00－12:00

場所：中部大学名古屋キャンパス(6階・610 講義室)

【議題】

- I. 前回理事会議事録（案）の確認
- II. 協議事項
 - 1) 平成27年度地方会会計報告（案）、事業報告（案）
 - 2) 平成28年度地方会事業計画（案）
 - 3) 地方会規約の改正について（最終版の確認）
 - 4) 部会規定について
 - 5) 地方会選挙管理委員の委嘱について
 - 6) 選挙細則の改正について
 - 7) 学会員への謝金等の適正運用について
 - 8) その他
- III. 報告事項
 - 1) 本部理事会
 - 2) 地方会事務局報告事項
 - 3) 部会・研究会
 - 4) 委員会
 - 5) 愛知県医師会産業保健部会
 - 6) 地方会ニュース
 - 7) 平成28年度総会ならびに研修会準備状況
 - 8) 平成28年度地方会学会準備状況
 - 9) ホームページについて
 - 10) 関連学会
 - 11) その他

会員の異動

【新入・再入会員】※は学生会員を示す

愛知

①塚田梨沙（サンエイ㈱）②山本隼大（名古屋大学大学院医学系研究科 環境労働衛生学教室）※③西脇明日香（三菱電機㈱名古屋製作所）④富田崇由（ナラティブクリニック みどり診療所）⑤二宮裕将（名古屋大学大学院医学系研究科 環境労働衛生学）⑥新海知恵（新日鐵住金㈱）⑦波多野直美（新日鐵住金㈱）⑧豊田桃子（新日鐵住金㈱）⑨稲垣弘（豊田自動織機東知多診療所）⑩深津美樹子（名古屋ステーションクリニック）⑪井沢かおり（㈱CBCテレビ）⑫大久保克己（瀬戸労働基準監督署）⑬東郷尚子（㈱シーテック）⑭土肥紗由美（三菱重工㈱）⑮加藤善士（藤田保健衛生大学大学院）※⑯小山富嗣（㈱シンフォニアテクノロジーズ診療所）⑰平出三美子（三菱電機㈱）⑱金森史枝（名古屋大学大学院）※⑲足立拓史（名古屋大学大学院）⑳吉田彩夏（中部労災病院）㉑長谷川まり（名古屋大学大学院）※㉒庄司直人（名古屋市立大学大学院）㉓大塚智美（名古屋大学大学院）※㉔仲田はるえ（㈱豊田自動織機）㉕横川裕子（東海旅客鉄道㈱健康管理センター）

三重

①井上さなえ（クノール食品㈱）②中澤誠（三重病院）③南川美央（住友電装㈱）④三浦美香（住友電装㈱）⑤片岡義之（㈱東芝四日市工場）⑥荻野妃那（四日市看護医療大学）⑦池田若葉（三重大学医学部附属病院疫学センター）⑧櫻井雅将（㈱東芝）

岐阜

①山田靖子（一般財団法人 総合保健センター）

静岡

①久間昭寛（東海旅客鉄道㈱健康管理センター）②畑中好美（ヤマハ㈱）③野木美紀（トヨタ自動車東日本㈱）④阿部幸洋（聖隷沼津第一クリニック）⑤木村公紀（東海旅客鉄道㈱）⑥山本江梨花（ジャトコ㈱）⑦町田浩道（聖隷福祉事業団 保健事業部）⑧諏訪香（聖隷福祉事業団保健事業部）⑨加藤綾子（矢崎総業㈱）⑩長谷川佳代子（㈱ソミック石川）⑪原田雅子（聖隷沼津健康診断センター）⑫兼子陽子（聖隷健康サポートセンター Shizuoka）

【転入会員】**愛知**

- ①井内淳子（JR東海㈱）近畿より
②大谷喜美江（日本赤十字豊田看護大学）関東より

三重

- ①藤原和美（鈴鹿医療科学大学 白子キャンパス）
近畿より

静岡

- ①梶田衆一郎（タイコエレクトロニクスジャパン合同会社）関東より
②倉林るみい（㈱リコー）関東より

【退会会員】**愛知**

- ①諫山優美（南山大学）②郷田妙美（南山大学）
③島岡みどり（名古屋大学総合保健体育科学センター）④石橋正代（大同特殊鋼㈱）⑤山崎晃⑥内山美代子（あじま診療所）⑦眞田知世（㈱アドヴィックス）⑧大重頼三郎（医療法人仁精会三河病院）⑨小田健一（小田醫院）⑩井出芙蓉美⑪谷澤誠（東海郵政健康管理センター）⑫丹村敏則（厚生連知多厚生病院健康管理センター）⑬横澤敏也（聖霊病院内科）⑭小川京子⑮金森史枝（名古屋大学大学院）※⑯李香（名古屋大学大学院）※⑰加藤善士（藤田保健衛生大学大学院）※⑱大塚智美（名古屋大学大学院）※⑲長谷川まり（名古屋大学大学院）※⑳山本隼大（名古屋大学大学院）※㉑呉文亭（名古屋大学大学院）㉒森下宗彦（愛知医科大学）㉓加藤由佳（㈱アドバンテッジリスクマネジメント）㉔山口園美（聖隷健康診断センター）㉕後藤俊介（愛知県厚生連足助病院）㉖井戸坂美智子（トヨタテクニカルディベロップメント㈱）㉗加藤隆寛（愛知医科大学病院）㉘久野淳也（やまね病院）㉙近藤小百合（㈱中京銀行）

三重

- ①長谷川久美（DMG森精機㈱）②川出鈴代（日本トランスシティ㈱）③井上好野（住友電装㈱）

岐阜

- ①佐久間朋子（ソニーイーエムシーエス㈱美濃加茂テック 健康管理室）②片倉和子（中京学院大学）
③坂下緑（一般財団法人 総合保健センター）④西田真由美（日本通運㈱岐阜支店）

静岡

- ①深澤麻里子（静岡県産業労働福祉協会）②澤本育美（掛川北病院）③森田いづみ（トヨタ自動車東日本㈱）④米山弥生（聖隷予防検診センター）⑤水田明子（浜松医科大学）⑥服部壽々代⑦亀井達也（聖

隷予防検診センター）⑧内海裕子（聖隷保健事業部 地域・企業センター）⑨飛鋪修二（フローラルクリニック）⑩後藤成生（聖隷予防検診センター）

【転出会員】**三重**

- ①中村智美（パナソニック㈱オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社）九州へ
②松岡英子（㈱エクセディ 上野事業所）関西へ

静岡

- ①田淵翔大（東海旅客鉄道㈱）九州へ
②高橋佳代（オムロン㈱）近畿へ
③横山麻衣（市立島田市民病院）九州へ
④無漏田芳野（ヤマハ健康管理センター）九州へ

【地方会内異動】**愛知→岐阜**

- ①松野千晴（㈱豊通シスコム）

愛知→静岡

- ①鈴木真弓（静岡大学保健センター 浜松支援室）

これからの行事予定

第 26 回日本産業衛生学会全国協議会

会期：平成28年9月8日（木）～ 10日（土）
会場：京都テルサ

第 44 回産業中毒・生物学的モニタリング研究会

会期：平成28年8月4日（木）13：00
～8月5日（金）12：05
会場：東京理科大学

日本混合研究法学会

会期：平成28年8月27日（土）～28日（日）
場所：東邦大学看護学部

第 75 回日本公衆衛生学会

会期：平成28年10月26日（水）～28日（金）
会場：グランフロント大阪

日本産業看護学会 第 5 回学術集会

会期：平成28年11月5日（土）～6日（日）
会場：アクトシティ浜松コンgresセンター

第 11 回産業歯科部会研修会の開催

日時：平成28年11月10日（木）

会場：リコー・エレメックス(株)恵那事業所

内容：工場見学と意見交換

平成 28 年度日本産業衛生学会東海地方会

日時：平成28年11月12日（土）

会場：浜松医科大学

平成 28 年度東海地方会産業医部会懇話会

日時：平成28年12月17日（土） 14：00～17：30

場所：中部大学鶴舞キャンパス（予定）

内容：特別講演「職域における発達障害対応をめぐる諸問題（仮）」

講師：伊澤 善史先生

（ヤマハ発動機株式会社 心理士）

『自身の産業医活動紹介』

講師：2-3名依頼中。

※事前申込要

申込先：三菱重工業(株)石川

kouji_ishikawa@mhi.co.jp

※医部会員以外でも、学会員であれば参加ですので出席希望者をご連絡ください。

職場ストレス研究会**(第 58 回産業精神衛生研究会と合同開催)**

日時：平成29年2月11日（土）

会場：名古屋国際会議場 2号館3階

内容：メンタルヘルスにおける若者への支援のために

第 87 回日本衛生学会学術総会

会期：平成29年3月26日（日）～28日（火）

会場：フェニックスシーガイアリゾート（宮崎）

第 90 回日本産業衛生学会

会期：平成29年5月11日（木）～13日（土）

会場：東京ビッグサイトTFTビル

メインテーマ：「産業保健近未来図」

**編 集 後 記**

ストレスチェック制度がはじまり、研修会など会員間で情報交換している光景を目にすることが多くなりました。

私が所属する大学も教職員数 50 人超の事業場かつ専属の産業保健職がない中、どのように展開するか検討を重ねる中で、皆様に教えて頂くことが沢山ありました。

このように、地方会そして本ニュースを通じて多くの会員の皆様と交流し繋がれることが嬉しく、その存在を心強く感じています。

編集後記 後藤 由紀

東海地方会ニュース

編集委員長：西谷 直子（椋山女学園大学）

副編集委員長：池田友紀子（キャンノン）

編集委員：赤津 順一（日本予防医学協会）

榎原 毅（名古屋市立大学）

河南 文子（富士電機）

後藤 由紀（四日市看護医療大学）

榊原 洋子（愛知教育大学）

菅沼要一郎（浜松ホトニクス）

城 憲秀（中部大学）

守田 祐作（新日鐵住金）

山本 誠（ヤマハ）

東海地方会事務局

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

愛知医科大学医学部衛生学講座内

TEL：(0561)62-3580 FAX：(0561)62-3580

E-mail：aratokai@aichi-med-u.ac.jp

印刷・製本

富士ゼロックスサービスリンク株式会社

TEL：(052)412-1461 FAX：(052)412-4149